

市民がつくる、未来のまえばし会議
～自分ごと化会議 in 前橋～
第4回 議事録

主催：めぶくグラウンド株式会社

共催：一般社団法人構想日本

2024年2月18日(日) 9:00～12:00

目次

1. A 班議事錄	2
2. B 班議事錄	12
3. C 班議事錄	21

1. A 班議事録

尾中ファシリテーター：

これまで自分ごと化会議に参加して、自分の中で変わったことがあったかお聞きしたい。もしうまく変えられなかったなら、それはどうしてなのかも掘り下げて考えたい。

委員：

買ってきた弁当のプラスチック容器が汚れていたら、水ですすいでから捨てるようになった。

委員：

生ごみの処理のしかたを変えた。食材の皮をむいたら流しに捨てずすぐにごみ袋に入れて、水を吸って重くならないようにしたり、大根の葉っぱなど食べられるものは料理するようになった。

委員：

学校で友達のペットボトルの捨て方を注意した。

委員：

買い物に行くと、今までは賞味期限が一番長いものを探して買っていたが、賞味期限が短いものから買うようにした。

委員：

ごみへの関心が高まったし、捨てる時に一手間をかけるようになった。初めてごみについて友達と話をした。自分ごと化会議についても話したら、友達が興味を持ってくれた。会議がとても楽しかった。

委員：

第2回会議で清掃工場でのペットボトルの選別の動画を見て、自分の捨てたごみが人の手を煩わせたり、苦勞をかけたりしていることに気づいた。

委員：

NPO 法人での活動で、全国からペットボトルキャップを集めて寄付する活動をしている。年末に、群馬県と前橋市のボランティアセンターにキャップを寄付しに行ったところ、県では民間での回収が増えてきたため取扱いをやめたしまったとのことだった。また、市ではこれまで行っていた回収量の計量がなくなった。

委員：

ごみの話題を職場の同僚とするようになった。委員の皆さんと違って意欲が高い人ばかりではないが、納得してもらえる部分もあったし、コミュニケーションを取れるようになったこと自体が良いこと。

委員：

家族に話をしたが、特に変化はない。結局、何を变えればいいのか分からない。

委員：

身の回りのごみ捨てだけはきちんとするようにしたが、職場に広めていくのは難しい。自分でも、正しい捨て方がよくわからないことがある。

委員：

高崎市の友達と家に泊まったとき、前橋市よりも緩い分別ルールになっていることを知って、私たちは頑張っているな、偉いなど誇らしくなった。

委員：

前橋市と高崎市で分別方法が違うのは、焼却炉の能力が違うからだ聞いた。

ごみ政策課：

能力にはあまり差がない。焼却炉でプラスチックを燃やすと、生ごみなどに比べて多くの温室効果ガスが出るため、前橋市はその対策としてプラスチックを資源ごみとして回収している。高崎市は焼却した熱を使って発電を行っており、発電量を増やす目的でプラごみも焼却している。

委員：

今の話は他の人にも伝えたい。説得力がある。

尾中ファシリテーター：

前橋市と高崎市では考え方の違いがあるということを知ったうえで分別をすると、誇らしさの裏付けになる。

委員：

自分ごと化会議について周りの人に話してみたら、参加者を無作為に選ぶ自分ごと化会議の手法にとっても興味を持ってくれた。また、ごみに対して色々な年代の人がそれぞれの関心や答えを持っていて、「高校生がこんな考えを持っているんだ」と嬉しくなった。日本の将来に希望が持てた。

委員：

コンポストをまた始めようと思っている。

1つ質問。先ほど高崎市と前橋市の分別方法の違いの話があったが、焼却炉の耐用年数はどちらが長くなるのか。

ごみ政策課：

整備した時期にもよるが、プラごみを燃やさない前橋市の方が長いと思う。

尾中ファシリテーター：

前橋市の焼却炉はどれくらいもつのか。

ごみ政策課：

六供の清掃工場では令和2年に延命化工事を行い、15～25年間使用していく計画。

構想日本 加藤代表：

プラごみを燃やさないことで温室効果ガスを減らすのと、プラごみを燃やして電気にするので、他の発電方法によって生じる温室効果ガスを減らすのは、一概にどちらが良いとは言えない。ただ、10年単位ぐらいの長い目で見ると、焼却炉の耐用年数も、温室効果ガスの排出量も、焼却しない方が良い結果になるというのが一般的。長い目で見れば、前橋の取り組みが正しい。

委員：

亀泉の清掃工場も延命化工事をしているのか。

ごみ政策課：

人口減少によりごみが減っていること、六供の清掃工場の処理能力を強化したことから、亀泉と大胡の清掃工場が不要になり、閉鎖した。再開の予定はない。

委員：

この会議が始まってから、ごみを出す機会もごみの量も増えたように感じた。生活環境の変化も原因だと思うが、きちんと分別をするようになって、自分が出すごみの量の多さに気付かされた。分別の意識が高くなって、職場の産廃も無償で回収してもらえる金属とそれ以外のごみを分別するようになった。ごみに接する時間が増えた。

委員：

弟がいる。とても大食いなので、なるべくごみが出ない大容量の商品を買うようにした。

尾中ファシリテーター：

他に、ものを買う前の行動に変化があった人はいるか。

委員：

冷蔵庫の中身を確認してから買い物に行くようにした。野菜の余りなどを先に確認し、なるべく腐らせない

ようにする。

尾中ファシリテーター：

この会議に関わるようになって、自分も妻と「食べきれないものは買わない」という目標を立てて頑張っている。

尾中ファシリテーター：

提案書についても、意見があれば。

委員：

「自分のごみは他人の宝、身近な人とシェアとしよう」とあるが、フリーマーケットなど、不要なものをそのままの形で他の人に譲るだけでなく、ペットボトルやブル缶などを換金してその収益を福祉などに役立てることによっても「他人の宝」にできる。スーパーでの店頭回収も増えてきているが、その収益が事業者の利益になっているだけなら、「他人の宝」とはいえない。

委員：

スーパーの利益に直結するような取組みではない。

委員：

でも回収する業者の利益になっている。「他人の宝」になっているのかどうか、私たちには知らされていない。

委員：

行政がペットボトルキャップの回収をやめたという話があったが、同様に衣類も、以前は廃品回収で集めてくれていたが、量が減ったのと扱いが大変なのでやめてしまった。本来は回収を続けるべきだと思うが、やめたのであれば、代わりに今ニーズが高いものを新たに回収すべきではないか。例えば、市で始めたフードバンクについて、設備をそろえて要冷蔵・要冷凍品も受け付けられるようにするとか。昔と同じではいけないと思うので、何かをやめるのであれば、代わりに新しいことを始めてほしい。

委員：

フードバンクのPRをしているのを見たが、食品がどう役立てられるのかがはっきりしていない。同じようにスーパーの店頭回収も、どれだけ他の人の宝になっているのかわからない。ごみをごみのまま横流ししているのはもったいない。市も県も回収をやめるという方針であり、さらにスーパーに資源が集まるので、使われ方は明確にしてほしい。

委員：

店頭回収したものではないが、例えば事務所で出たコピー用紙は溶かしてトイレトペーパーや再生紙として利用していたり、回収したペットボトルキャップを換金してワクチン等の寄付をしたり、活用されているケースはある。もっと企業としてアピールをすべきかもしれないが、一方で、店頭回収したものを回収業者に無償で引き渡して、回収業者の利益になっているケースもあるかもしれないが、その場合でも回収の場を提供することは悪いことなのか、いいことなんじゃないかと思う。

委員：

ネットで検索すれば、ペットボトルを回収してくれる業者を調べることができるようになっていて、個人 1 人からでも調べて持っていったりできる。今は回収の場が細かく広がっているのだと思う。

尾中ファシリテーター：

「自分のごみは他人の宝」というキーワードは、A 班の議論で出てきた言葉。店頭回収したペットボトルが車椅子やワクチンに変わらなくても、回収業者の利益になりそこから従業員の給与が支払われているのであれば、集めたものが誰かの生活の糧になっているという点では「他人の宝」とも言える。ここでいう「他人」の考え方は人それぞれあると思う。あと、スーパーでの回収は事業者としての社会的な責任を果たすために、必ずしもやらなくてもいいことをやるという点では、ごみの分別をすとか、大根を葉ごと食べるとか、ペットボトルの捨て方を注意するのと基本は同じで、規模や場所が変わっただけなのかなと私は感じた。もう 1 つ、いま委員の方がペットボトルの回収場所を調べてくださった。外国人のマナーの問題など、行政がもっと啓発すべきという話は当然あるが、自分で調べて、自分の行動の後押しをするというのは良いことだと思う。ごみについて何か調べてみたことはあるか。

委員：

最近だと、海外のごみ捨てについて調べてみた。ゴミ袋に重さを測るマイクロチップがついていて、ごみを出した量に応じて料金を払う仕組みや、先進国のごみを減らすための取り組みを調べた。外資系のイケアが最近できたが、イケアでごみを出さない、出してもそのごみを再利用して何かするなど取り組んでいることも調べて、何か自分たちで生かせることがないかと考えた。先ほどのフードバンクの話に近いが、スーパーから出る食品ロスを、廃棄しなければいけなくなる前に無償で配ったり、調理して社内の人にもふるまうような食堂を作ってみるのも面白いと思った。ただ、悪い考えを持つ人は、食べたいものをあらかじめ決めて積極的に廃棄・調理に回してしまう可能性もある。結論は出ない。良い悪いは決められるものではないなと思った。

尾中ファシリテーター：

前橋市と高崎市の分別の違いも、どちらが良い悪いというのではなく、前橋市では分別をすることが環境に良いことだと決断をしたということ。良い悪いはないというのは良い言葉だ。

委員：

もう 1 つ、前橋市のパンフレットにごみ出しのルールが色々書いてあるが、それはあくまでも市としての指標であって、地域ごとに決めても良いと思う。例えばごみは当日の朝 8 時に出すことになっているが、もっと早く出してもいいのではないか。ネットをかけるだけの集積所だと猫やカラスに荒らされるので難しいが、そうでないところは別に前日から出してもいいルールにするとか。また、ごみ袋の色のルールも緩和していい。

尾中ファシリテーター：

前回の会議で安富さんからお聞きした佐那河内村の話にもあったが、自分たちのことは自分たちで決めるということではできそうか。

委員：

自治会活動に参加しているが、高齢化が一番の問題。自治会の場に色々な年代の方が集まって話し合いをするのはハードルがすごく高い。ただ、ごみ問題はわかりやすいし、みんな関心を持ってくれるテーマだから、地域の繋がりが希薄になっている今、そういうことができれば地域が繋がるきっかけになると思った。

委員：

自分の地域でも高齢化の問題はある。あと、会議で決まりきった内容を話すだけで、若い人は参加しない。だから、会議の場を有意義にするためにはどうすればいいかを考えるべき。例えば尾中さんのようなアドバイザー的な人に入ってもらうとか。交通費などの費用は生じるかもしれないが、それで会議の雰囲気が変わるなら、良い投資だと思う。

尾中ファシリテーター：

この会議をするために何千円も払うのか？とってしまう人も出てくるかもしれないが、これも良い悪いではなく、正解はない。

委員：

自治体に予算があるなら、払ってもらえると良い。

尾中ファシリテーター：

確かに、ごみの回収のほうにコストをかけるより、地域の話し合いの場をつくるのにお金を使う方が、有効な活用かもしれない。あとは例えば、高校のホームルームでごみの話をしてもらうのも面白い。提案書を見て、ここは変えたい、これを追加したいなど意見はあるか。

委員：

提案書にあるように、「燃やすしかないごみ」などに名称を変えるのは賛成。前橋市は「不燃ごみ」「可燃ごみ」

み」の名称を使っているが、わかりづらい。

ごみ政策課：

私の個人的な意見になるが、前橋のごみ袋は昔から同じスタイル。これから先は、ごみ袋を燃やすしかないごみ袋、燃やせないごみ袋に分けるとか、ごみの減量につながるよう品目ごとに袋を分けるなど検討していかなくてはならないと思っている。また、ごみ袋をバイオマス素材に変えて、燃やしたときにも二酸化炭素の排出量が少なく、環境にやさしいものにするということも考えていかなくてはならないと思っている。

尾中ファシリテーター：

市ですでに議論は始まっているのか。

ごみ政策課：

まだこれから。ごみ袋の有料化なども含めて、今後のあり方は考えていかなくてはならない、その際のアイデアの一つをいただいた。

尾中ファシリテーター：

行政の仕組みは、すぐに変えられるものではない。それは行政の動きが遅いということではなくて、30万人に影響する仕組みを変えるのにはそれだけの時間がかかるということ。一方、例えば集積所単位で燃やすしかないごみに名前を変えるくらいなら、すぐにできるかもしれない。学校のごみ箱に「燃やせないごみ」のラベルを貼ったっていい。

委員：

来年文化祭と体育祭があって、ごみがたくさん出るので、そこでやります。（一同拍手）

尾中ファシリテーター：

他に、地域でできそうなことはあるか。

委員：

難しい。ここにいる人たちはモチベーションもあるけれど、それを他の人に伝えてわかってもらうのは簡単ではないな、と聞けば聞くほど感じる。

尾中ファシリテーター：

そうですね。だからこそ、さっきの意見がいいなと思ったのは、普段使っているごみ箱の名前を変えるのは少しハードルが高くて、文化祭のように単発のイベントであればできそうと言ってくれたところ。継続されなくても、一回限りでも何かするというのは面白い。

委員：

道端を歩いていたら、誰かが投げ捨てた空のペットボトルが転がっていた。拾ってスーパーに持っていくこともできたが、人が口をつけて飲んだものを触るのは絶対に嫌だなと思い、見送ってしまった。あれはどうしたらいいのか。

尾中ファシリテーター：

難しい問題。自分も今日ここに来る途中、銅像の下に飲みかけのペットボトルが放置してあるのを見かけた。これからごみの減量について話すのにこれを放置するのか、と思いながら来てしまった。

委員：

街中に転がっているよくわからないごみは実は多い。でも絶対触らない。

尾中ファシリテーター：

これは距離次第かなと思う。すぐ近くにコンビニがあればそこで捨てるけど、近くに捨てる場所がないのに拾って持ち歩くほどのことはできなくてもいいのかも。

委員：

家で使わない廃材を保育園に持って行って、おもちゃなどを作る材料にすればごみは減らせる。大人が使い道がないと思うお菓子の箱や新聞紙でも、子どもにとってはなんでも作れる材料になる。そういうものを保育園に持ってくる機会があるといい。

委員：

この間ごみ出しをして思ったことだが、資源ごみは種類ごとに色の違う箱が 3、4 つぐらいに分かれていて、すごくいい。同じことが可燃ごみでもできないか。例えば生ごみとそれ以外の可燃ごみに分けられれば、生ごみだけを乾燥させてから市で燃やしてもらうなどできると思った。

尾中ファシリテーター：

それは自分の地域でできそうか。

委員：

地域の皆さんに周知するのが難しいので無理。でも、生ごみを捨てる専用の袋を集積所に置いてもらえればできるかもしれない。

尾中ファシリテーター：

集積所を工夫することで、自分たちの行動に変化を起こせるというのは良い視点。

委員：

例えば集積所に防臭できる生ごみ専用の袋を用意して、そこに各自がスーパーの袋などに入れた生ごみを捨てて、1袋にまとめるという方法が考えられる。袋の整備以外に、カラスに狙われやすくなる問題はあるが、倉庫のようにになっているタイプの集積所ならできそう。佐那河内村では資源ごみを細かく分別していたが、これを可燃ごみに置き換えれば、こういうアイデアになる。ごみの中で可燃ごみの排出量が一番多いので、そこから着手したい。

委員：

会議の最初に、市のごみ分別のハンドブックの内容をみんなで見直すところから始めたら、色々なことがより早く解決したかもしれない。

ハンドブックにはごみは朝8時までに出すよう書いてあるが、私の家の近くに、足が不自由なご老婦人がいる。その方は朝ではなく、前日の夕方に乳母車のようなものにごみを入れて、ゆっくり集積所へ持って行く。そういうのを見ていると、前日の夜にごみを出すのはだめだというルールも、個々の事情も勘案してあげなければいけないだろうと思う。

委員：

これはあくまで市の基準なので、先ほども言ったとおり、自分たちのルールは自分たちで決めればよいと思う。この集積所は高齢の方が多く使うので、前日に出してもいいことにするとか、臭いや動物対策がきちんできてきている集積所は、前回のごみの回収が終わったら次の回収までの間はいつでも出せるようにするとか。朝8時という目安を守れていない人もそれが一概に悪いのではなく、事情がある人もいると思うので。

尾中ファシリテーター：

それぞれの地域で、こういう事情があるからこのルールにするとみんな納得すれば、絶対に朝8時にごみを出さなければいけないということでもないと思う。あとは、そのルールがある理由を考えること。

委員：

ごみの回収業者が午後に来る地域なら、朝8時より遅くごみを出してもいい。ルールがある理由がもっとわかってくればみんな納得できる。

委員：

夜にごみを出してはいけない理由の一つは鳥害対策だと思う。だから集積所の鳥害対策ができていない地域では、そこまで厳しくしなくても問題はないはず。

委員：

行政は大多数の人に向けたルールを作らなければならないが、それがすべての地域へ一律に適用するの

ではなく、環境によってそのルールは変えてもいい。

尾中ファシリテーター：

そのルールによって果たそうとしている目的が変わらず達成できるのであれば、ルールは変えてもいいと思う。

2. B 班議事録

松原ファシリテーター：

提案書の案が出来上がったが、これを読んで内容の詳細の話をするよりも、この会議を経て皆さんが変わったことや今後変えていきたいことなどを話していただいた方がいい時間になるかと思っている。皆さんから共有していただいたことをもとにより具体的に話を広げていければいいなと思う。自分は、もともとごみの分別をきちんと行っていなかったが、今回の会議に参加してからはきちんと分別をするようになった。きちんと分別をするようになってから、マンションのごみ捨て場にプラスチックのトレーを出す場所があることに気付いた。言いにくいこともあるかもしれないが、こんな些細なことでも構わないので話していただければと思う。

委員：

ごみが減った前橋市の姿、理想の姿とはどんなものなのかということが冒頭でもっとはっきりと見えるようになっていて、この提案書で伝えたいことがもっと多くの人に伝わるかなと思った。また、市のルートではなく民間の集積場を利用すれば市のごみの量が減るという話も、結局総量は減っていないと思う。

松原ファシリテーター：

理想と具体の部分もあるので書き方はすごく迷った。この場で皆さんの理想のイメージがまとまるといいが引き続き考えさせていただきたい。前橋市を通さずに民間のルートにごみ（資源物）を流せばいいのではないかという話は抜け道のような印象が確かにある。市で計測しているごみの量が減っても、その分以上に他で増えていけばごみが減ったといえないので、ごみを減らすという目標にむかっていくためにはどうすればよいか我々も考えている。ちなみに、どんなものが理想かというイメージはあるだろうか。

委員：

単に物の処理をするというだけではなく、ごみも減るし、それに伴ってそれぞれの地域が活性化できるという状態を目指すことはできないかと考えている。持続可能なその先のリジェネレーションのような形で、消費すればするほどよくなるというのが理想ではないだろうか。なるべく使わない生活を目指す生活が制限されて大変なので、むしろその逆ができればいいかと思う。

委員：

この会議で一番大切なことはごみを減らすことだと思う。分別をきちんとすればごみは資源になるし、資源が増えれば処理するごみの量は減ることになる。市民全員が当たり前で分別ができるように行政と民間企業がともに引っ張ってくれたらと思う。

松原ファシリテーター：

理想の前橋市はどんなものか、みんなで分別をする、という話題で進んでいくと話が遠くなってしまっているので、私に何ができるか、何がしたいかということを中心にお話しただいて、その視点から地域や行政はそれぞれ

れがどんなことができるかということを考えていきたいと思う。

委員：

わたしが この会議に参加して変わったのは、生ごみの水分を丸一日以上切るようになったこと。水気を切ることで重さを減らすことを意識している。

委員：

私は自分だけがごみのことについて色々工夫をしていたが、会議に参加してからは家族に伝えるようにしており、思ったより協力してくれている。今までは可燃ごみに捨てていた紙パックも、洗って乾かしてから分別するようになった。あきらめずに発信することが大事だと思った。また、この会議においてコンポストの話がたびたび挙がっていたが、マンション住まいであったり、完成した堆肥の使い道がないなど使用に向いていない環境の方もいると思うので、コンポストについてはできる方が取り組みやすいのかなと思う。できない環境の方は生ごみの水気を切るなどして、それぞれが自分でできることからすこずつ取り組んでいけば大きな変化になるのではないかな。そして、生ごみの水気を直接絞ることに抵抗があるのであれば初めから濡らさなければいいと思う。（洗ってから時間をおいて皮をむけば乾いた生ごみになる）

松原ファシリテーター：

家族にごみのことを話すときに気を付けたことはあるだろうか。

委員：

ちょっと違うなと思って、思ったことの半分くらいをさりげなく伝えるようにしていた。

松原ファシリテーター：

ごみを減らそうという伝え方なのか、私はこうしてほしいという伝え方なのかどんな話し方だろうか。

委員：

紙パックは本当は可燃ごみじゃないからゆすいで置いておいてもらえると嬉しい、などと話していた。

松原ファシリテーター：

ごみを減らそうと漠然と話すよりもそのくらい具体的に言った方が分かりやすい気がする。そもそも分別や資源のことを気にしていないという部分があると思う。

委員：

野菜を濡らさずに調理するのは私も実践している。特に玉ねぎは今までは一度シンクに皮を捨ててから最後に集めていたが、今は水気を含まないように捨てている。ごみは汚いものだというイメージを変えるために、前橋市で、シンクに設置する水色の水切りネットに赤城山のデザインを入れたものを作成していただけれ

ばいいなと思う。

委員：自分は服の整理をした。ずっと着ていないものもタンスに入れていたが、店に引き取ってもらったり、譲渡したり、掃除用の布として活用したりしている。

松原ファシリテーター：
メルカリなどは使った？

委員：
使ったことは使ったが、郵送のことなどあまりわかっていないことも多い。

委員：
私はトレーやお菓子の袋を水洗いしてから出すようになった。

委員：
この回でどんな話をしているのか、親が関心を持って聞いてきてくれている。普段、台所での作業をしているのは親なので、生ごみの水気を切るといいたいという話を伝えた。すると、親が早速実践しているところを見た。

松原ファシリテーター：
家族への伝え方についてすごく興味がある。「ごみを減らしましょう」と言っても話が大きく、行動に移しにくいのではないだろうか。

委員：
ごみを燃やさないためにはという伝え方をした。そして、そのためにはどんな方法があるかということを説明した。他には、卵の殻は沸騰したお湯で消毒して乾燥させ粉末状にすると、爬虫類のカルシウム補給や畑の肥料としてメルカリなどで売ることができる。面白そうなのでやってみたいと思っている。

松原ファシリテーター：
今まではごみだと思っていたものが売れる資源だという側面もあるということに気付いたきっかけは何だろうか。

委員：
身近なもので売れるものはないかと調べていた時に発見した。送料なども含めると利益が生まれるほどのものではないが、楽しみながら作って売れるならいいかと思う。

松原ファシリテーター：

少し違うかもしれないが、それが先ほどのリジェネレーションに近いものかもしれない。活動すればするほどよくなるというか。

委員：

工作で少し使いたい人などに対して新聞紙も売れるらしい。

委員：

自分は普段台所に立たないので、自分が何かを言うのは申し訳ないと思っていた。しかし、たまたま自分が台所に立った時に生ごみを絞っていたら、そんなやり方があるんだという風に関心されたので、実際にやっているところを見せながら意識の共有をするのがいいのかなと思う。他にも、お菓子の包装が過剰だと感じることがあったりして、明確に行動の変化があったわけではないが考え方が変わったと思う。

松原ファシリテーター：

これまでの話は家庭のキッチンの話が中心だったと思うが、学校などで変わったことはあるだろうか。

委員：

紙で配られるものとデータで配られるものが色々あるので、全部データにしてほしいと思う。ただ、先生に言っても簡単に変わらないことはわかっている。

松原ファシリテーター：

ごみだけで考えればデータの方がいいが、何かほかの理由があるのだと思う。どれが紙でどれがデータか、理想はあるだろうか。

委員：

授業で使うプリントは色を使って直接書きたいことなどもあるので、紙でもらえた方が嬉しい。保護者への手紙や生徒へのお願いなどは読むだけなので全部データにまとめてもらいたいと思う。

松原ファシリテーター：

確かに、お知らせ関係は整理されていてすぐに見つかる方がいいのでデータの方が優れているかもしれない。

委員：

通知表は紙の方が見せやすいと思う。

委員：

学校でごみとして出た木材をもらい、技術の授業と同じことを家でもやってみた。木材をもらうときには、「ご

みになるものでいいのください」と言うともうることができる。

松原ファシリテーター：

これまでの話にもあつとように、ごみも人によっては資源になるということ。

委員：

ごみを出し忘れてごみ袋がたまっていくことがよくあるので、親にさんあーる（前橋市のごみアプリ）を紹介したらすぐ気に入って使っている。今日はなんのごみの日か、朝に両親がどちらが先に言えるか競っている。

委員：

紙のカレンダーを見に行かなくても、今日はなんのごみの日かがスマホに表示されているので使い勝手がいい。

委員：

朝起きたときに、夜の間に受信している通知などをまとめて処理するが、その時になんのごみの日か一緒に目に入るのが便利。

委員：

イベント情報なども載せられるので、ごみに関連する情報や地域の情報なども見ることができて大変満足している。

松原ファシリテーター：

副市長もいらっしゃるので改善点もあればぜひ。

委員：

基本的には大満足している。

松原ファシリテーター：

さんあーるの話では、今後、捨てたいものを調べるとチャットボットのようなものが詳細を答えてくれる機能を追加しようとしていると聞いたが、これはあった方がいいだろうか。

委員：

自分で調べるのは結構大変なので、簡単に調べられるのなら嬉しい。ラップや歯ブラシはプラスチックと可燃ごみのどちらに分類されるのか気になることがある。

松原ファシリテーター：

正しい方法がわかればその通りに従うが、そもそもそれがわからないので困るという部分があるかと思う。

委員：

自分も学校のプリント類の多さが気になるので、データで行う授業やノートをとる授業、プリントを使う授業など色々あるのはなぜか学校の先生に聞いたが、わからないと言われてしまった。若い先生はデータを投影してくれることが多くなってきた。機材の使い方が難しいと言われることが多い。

松原ファシリテーター：

データを見せるだけでは生徒に伝わっているかがわからないなど、何か理由があるのだと思う。先生もスマホは使っているはずなので、デジタルは使えないというのは気持ちの問題かと思う。

委員：

自分の行動は特に変わったことはないと思う。しかし、この会議に出るまではごみのことは自分ごととして考えていなかったが、考え方が変わった部分はある。また、自分がこうした買いに参加するときは若手としての参加が多いが、今回は学生も多く、しっかりしないといけないうようになり、マインドの変化はあったと思う。最初のうちは、行政が頑張ればごみは減っていくだろうと思っていて、他人事だと思っていた。しかし、行政の人の話を聞きながら色々学んでいくうちに、できることは色々やっているということが分かった。変わっていかないといけなひのは我々なのではないかと思うが、皆さんが家族や先生に話をしているように、これが変化だと実感している。今回はごみ問題がテーマだったが、広く前橋市のためになることを考えると子育てなど他のテーマで実施しても面白いと思う。できれば、この提案を受けてどう変わったのかという簡単な報告会のようなものがあれば、改めて参加してよかったと思えるのではないだろうか。

松原ファシリテーター：

報告会は誰から誰に対しての報告を考えられているだろうか。

委員：

行政から市民への報告で、紙でも報告はできると思うが、せつかくなら対面で集まってお互いに意見を言える方がいいと思う。こんな提言があり、ごみ政策課や前橋市ではどんな風に変えていくのか教えていただきたい。正直に言ってまだ何も変わっていないということでも問題はないと思う。集まることに意味があるのではないだろうか。

松原ファシリテーター：

これからも継続していくということが重要だと思う。みなさんから一通り意見をいただいたが、その他はいかがだろうか。

松原ファシリテーター：

聞いてきた話の伝え方のことや、学校のことなどで先ほどは盛り上がった。

委員：

学生でいいアイデアを思いついても、先生に言ったところで跳ね返されてしまうと思って何も言えないことが多いと思うが、先生に対してプリントのことやデジタル化のことが言えたのは一つの大きなブレイクスルーになったと思う。これから社会人になってからも、同じような機会などは発生するはずであり、我々大人も見習わないといけないと感じた。

委員：

先生にはどうせ分からないと言われるだろうということはわかっていた。しかし、伝えることができてよかったと思っている。

松原ファシリテーター：

ごみ以外のことで先生に言ってやり方が変わったことはあるだろうか。

委員：

生徒会から申し入れた結果、間食が OK になった。

委員：

私の学校は生徒からの発案で生徒会ができたり、コロナで中止になっていたイベントを再開してほしいと直接校長先生に投げかけたりした。

委員：

報告会のことも話があったが、お互いが動向を共有できるように、今回の委員が参加する LINE グループやオープンチャットがあってもいいと思う。

松原ファシリテーター：

オープンチャットは LINE の中にある機能だろうか。

委員：

LINE の中にある機能で、普段使っているアカウント名じゃなくても参加することができるグループのようなもの。

松原ファシリテーター：

なるほど、みんなが参加できる場があって、今後行政から何かしらの報告があるとすごくいいと思う。

委員：

この会議において、何かが変わりそうだと感じる理由の一つは、市で実際にごみの業務を行っている職員がこの場にいることだと思う。市民だけが集められてこの会議を実施したとしても、ここまで継続的に参加するかどうかはわからない。何かを変えてくれるかもしれないと思わせる力を持った集まりをこれからも開くことが大切だと思う。

松原ファシリテーター：

変えられる人がこの場にいるということは確かに重要だと思う。

委員：

ごみ政策課は日ごろの啓発などで市民との接点の場があると思うが、運営側のスタッフとして私たちも参加するというのもできると思う。

松原ファシリテーター：

市民の方にイベントのサポートをしていただくことは可能だろうか。

ごみ政策課：

学生の環境サークルにボランティアスタッフとして手伝っていただいているイベントがある。今回の委員の方々が同じように参加していただけるのであれば心強い。

松原ファシリテーター：

どんなイベントをされているのだろうか。

ごみ政策課：

食品ロスのイベントなどを行っている。

委員：

そういうイベントに学生ボランティアを集めたいのであれば、内申書に書けるよう、ボランティアの証明書を発行してもらえれば大量に集まると思う。誰かのために頑張ろうという凄い人ではなくても、自分に得があるからやってみようという関わり方から入っていいと思う。

委員：

高校生に募集をかけても良いのでは。

委員：

個人で出来ることから始めるのも良いが、自発的な活動を待つのではなく、モデル地域を決めて、そこから広げていくのも良いのでは。市全体を動かすのは大変なので。

松原ファシリテーター：

モデル地域ではどんなことをテストしてほしいか。

委員：

市から正しいごみの減らしかたを教えてもらって、自治会単位や学校単位などでその効果を検証する。

委員：

モデル地域でやってみてわかった課題やメリット・デメリットなどを明確にできると、他地域へ展開する際の理由づけになる。メリットが見えないままボランティア精神に頼るよりも展開しやすい。

委員：

県営の団地などでは、下の階に無料の学習スペースや子ども食堂を併設しているところがある。それらを活かせば、食品ロスの活用もできる。また、皆さんの知恵を集めて理想のエコな家庭を作るように、家庭単位でモデルケースを作るのも有効では。

松原ファシリテーター：

独身の家庭や子供がいる家庭など、家族構成によって生じる悩みなどが共有しやすくなるかもしれない。

委員：

町内の人がいちばん集まるのは、自治会の納涼祭の場。そこに行政の人に来てもらって、ごみについてレクチャーをしてもらうと効果がある。また、納涼祭自体でも大量のごみが出るので、あわせて処分のサポートをしてもらえると良い。

3. C 班議事録

今泉ファシリテーター：

自分ごと化会議を通じて、皆さまにどんな変化があったのか聞きたい。思ったこと、感じたことでも良い。

委員：

最終的に目指す生活は昭和の暮らし。半自給自足。動物と共に暮らしたい。ごみが出ない暮らし。ただし、子供は全力拒否している。70 歳くらいで自動車も手放したい。今回自分ごと化会議に参加してそういった目標が明確になった。今までは馬を飼う人を手伝ったりしているだけで、何となくだった。

子供とごみの会話をするようになって、子供がマックをテイクアウトしなくなった(店舗で食べるようになった)テイクアウトだとごみが多くなる。友達が一緒だとなおさら。いつも子供にはごみをたんで捨ててねと言っていたが、子供はそれが面倒でお店で食べるようになった。

学校のプリント多い。どうやって捨てるか悩む。年末にまとめて捨てることが多いが、学校側で工夫できないものか。例えばタブレットを活用できないか。

委員：

自宅で使わなくなったが、他では使えるものは結構ある。ただ、出すところかわからない。SNS の売買は苦手だし。気軽に持って行けるところがあれば良いと思う。例えば学校で使うピアノや笛など。捨てるのはもったいない。

委員：

ピアノ等を集めて寄付している人もいる。ピアノのホースだけ買って、本体は寄付されたものを使う。学校のお知らせをタブレットでという話があったが、まだまだデジタルについていけない世代もいる。デジタルで発信している例もあるが、見て貰えないという課題もある。

子どもが親に見せてくれれば、紙でもデジタルでも可能だが、そもそも子供が親に見せてくれないと意味がない。そこは紙でもデジタルでも親子のコミュニケーションが必要。届かないと意味がない。

委員：

3 人子どもがいて、県外で暮らすので、引越しの際に他の自治体のごみを考えるようになった。ごみの捨て方について会話が増えた。ごみ袋やごみの出し方についても、自治体によって様々。

自治体によりごみに関する情報発信方法も様々。集合住宅ではいつでもごみを出せるところもあるようだとか、ごみに関する事例が気になるようになった。家に帰ってごみの話をするようになった。TV やラジオでごみのワードが聞こえると引っかかるようになった。

例えば、この間テレビで野菜は皮ごと食べられるという話をみた。日本では野菜を出荷する時に洗浄するので、改めて剥く必要はないとのことであった。

委員：

ごみというワードが気になるようになった。この間、上毛新聞で人工芝が切れて水路に流れてごみになったとの記事を見た。プラスチック以外で人工芝を作る発明ができないかなと思った。子どもが群馬高専で勉強することになったので、そういったごみに関連する技術について子供とごみの話をした。ピアノカなど学校の道具セットは貸出で良いと思う。

委員：

父母が遺した家のごみ屋敷になっている。片付けると使えるもの出てくる。ただ、捨てられないものもある。半世紀前のものが出てくる。

委員：

ごみの意識が高まった。中途半端に捨てられない気持ちになった。ごみ集積所を綺麗にしようと思うようになった。段ボールのピンを全て抜くとか。職場で請求書が電子化されている。ペーパーレス化が進んでいるが、データ容量が大きいいためその保存について課題あり。最低 10 年保存と言われている。事業者によって請求書はすごい量になる。デジタル化による課題が生まれている。

委員：

ごみ削減というよりごみに対する意識が高まった。ジムに行くが、そこでごみを拾うようになった。重要だと思ったのは、会議に参加することで意識が変わる。清掃活動をしている人を見て、自分も頑張ろうと思う。犬のフンを拾っている人が目に留まるようになった。人の行動が目に留まる。感謝される訳ではないのにやっている。自分の家の裏に住んでいる犬を飼っていない人。自分ごと化会議に出ていることは友達に伝えている。前橋がどう変わっていくのか等、未来について話すこともある。その友達は教員になるのだが、ごみを削減していきたいという話が出た。

委員：

コンポストを始めた。これからどうなっていくか楽しみ。器は樹脂のリサイクルプランターとトレーを使用している。全てそこで完結できるように。コンポストは匂いとか虫が心配だった。勝手口の階段の横、つまり風が当たらないようなところで管理している。嫌なことやリスクを先に調べた。そもそも食べ物の残りも出ないようにしているが、ハーブを育てているので、ハーブティーの残りカスを活用してみたら、殺菌作用があるのか、匂いも感じない。ビニールに入れているが、開けた時も匂いがしなかった。いずれにせよ夏はやりたくない。

委員：

コンポストに匂いは食べかすの量によるのではないか。バランスが大事。

委員：

前の職場で EM 菌を活用した生ごみ処理をやっていた。匂いがなくなりますが、抑えられる。

委員：

自営業だが、コピーはよく使う。コピー用紙の両面を使おうと意識することが多くなった。シュレッダーした紙片を回収業者に出して資源化することを意識している。トイレトーパーくらい作れるのではないかな。

委員：

裏紙の使用を徹底するため、職場には裏紙回収ボックスを置いている。ただ裏紙を使ったプリンター通りづらい。詰まって、余計にインクを使ってしまう感じがした。役所で使用している再生紙は、普通の紙よりも価格が高い時がある。

ごみ政策課：

「グリーン購入」という、環境に配慮した物品を購入しようという方針がある。

委員：

市が広瀬川のところに整備しているイベントスペースなどでフリーマーケットをやるのが良いのではないかな。

委員：

古本のイベントはアーケードでやっていた。コピーライターの糸井重里さんが主催だったと思う。

今泉ファシリテーター：

ここまではどうい変化があったか聞いてきたが、ここからは、今後こういう風に動いてみたいかを教えていただきたい。

委員：

ビールを缶ではなく、ビンを買いたいと思っている。買うものを意識していきたい。
3～4人で買い物して、昼間に公園で分け合っているのを見たことがある。大きくて食べきれないものをタッパーで分けていた。

委員：

昔から「もったいない」という意識を強く持っている人との関わりが多かった。自然に身につけていった。トレーサビリティを見える化することが重要。全体の流れ、何からできていて、どういう風に作っているか。それが見えると、利用の仕方や直して使うとかの気付きになるのではないかな。

委員：

他の人に使って貰うという意味で、おもちゃを直して再生させる「おもちゃドクター」という取り組みがある。特別支援学校に勤めていたことがあるが、子供の学びには遊びが重要。おもちゃを寄付してもらえると嬉しい。多摩市でもおもちゃを直す同じような取り組みがあったはず。

委員：

町内の有価物回収は育成会や老人会が担ってきたが、運営する側が歳をとってきた。ニーズが変わってきている。子どもが少なくなったり、育成会に入らない家庭が増えてきたりして、バランスが崩れている。昔と同じようにできない。ごみの処理の大きな部分を占める有価物回収が成り立たなくなっている。維持していけるか心配。

今泉ファシリテーター：

ごみの集積の掃除や管理はどうなっているのか？地元の自治会の役員の方が対応とか、曖昧なところもあった。

ごみ政策課：

ごみ集積所の管理は環境美化委員もある。アンケートしたところ、前橋市内でも地域によって様々なパターンがある。公園清掃を班ごとに割り振っているところ、輪番でやっているところもある。地域コミュニティで自主的にやっているところもある。

委員：

自宅の近くは外国人の方も増えてきていてあまり近所で話すことがない。仕事が朝早く、夜帰ってくることもある。実家で事務所をやっているが、周りは高齢者も多くて、ごみをきれいに管理している。ただ、高齢者にとって分別が難しい。既存のごみ分別マニュアルを見てもわからないごみが多い。「さんあー」は高齢者の方は使わない。

ごみ政策課：

ガイドブックや「さんあー」、ごみカレンダーに分別方法が書いてあるので、それを参考にして欲しい。話は変わるが、市街地では、集積所の確保にも課題が出てきている。ゆくゆくは個別収集も考えていかなければならないが、その場合コストがかかるため、ごみの有料化も検討しなければならない。ごみ出しの場所には地域のコミュニティという役割もある。

委員：

昔からの住宅地域では、ごみ出しの場所はコミュニティ作りという役割もあるから、安易に奪わない方がいい。専業主婦の繋がりで声をかけられて、まさに昭和に戻るイメージ。新興住宅だと、そういうことはない。声をかけるのは少し怖い。地域によって、住民の繋がりは大きく異なる。

委員：

かなり厳しくごみ出しを管理している地域だったので、鍛えられた。

委員：

班長や組長が集積場の管理をやっている。

委員：

組長がやっている。組長は持ち回りなので、輪番に近い。ネットの管理など。新住民の中でも、集合住宅に入ると管理人がやるから意識が芽生えない。

委員：

新住民には班に入って、自治会費も払うが、掃除はしないという人もいる。ごみは出す。新規で地域に入ってくる人で積極的に関わろうとする人もいる。結局人によるところもある。印象として半分くらいは参加してこない。自治会費を払わない人もいる。そういう人は挨拶もしない。

構想日本 加藤代表：

普通に防災訓練やっても人は来ない。マンションの理事組合で相談して、バザールをやった。その結果防災訓練に人が来た。違う入口を作ってみる。入り口を変えてみる。きっかけを与えることがポイントかもしれない。三陸でごみ収集ステーションを作った、そうしたら、たこ焼きを出す人が出てきて、コミュニティができた。福岡県でも同じような取組みでカフェができて、コミュニティができた。

委員：

時間と場所を決めて、資源ごみ回収を公民館でやっている。鍵もかかっていないので実質いつでも出せる。出し方は守って下さい、ということになっている。

委員：

有価物回収を育成会でやっていたが、小学校では親の負担が大きく、やらなくなっている。中学校でもやっているが、自転車を持っていけるものしかなく、仕事があると持っていけない。行政主導で、中学校主催のバザールを年に数回開いてもらえないか。中学生は力もあるし、やりやすい。前には育成会のバザールを2年に1回やっていたが、コロナでなくなった。「バザールがある年は役員をやらぬ方がいい」という話も出回ってしまっていた。